



①EV「Meguru」
②電車型EVと淀川製作所の従業員
③「Meguru倶楽部」の様子
④イベントで人気の電車型EV
⑤手がけている小型精密部品
⑥熟練工の目が光る

よどがわせいさくしょ
株式会社 淀川製作所

- 企画力
- 短納期
- 小ロットOK
- 量産OK
- 試作OK
- オカシ技術
- 海外対応
- 連携力

代表取締役
小倉 庸敬さん



誰もがわくわくする「ものづくり」を目指します

昭和36年に父の小倉義久が創業して以来、農機具や医療機器に使われる部品の試作品を手がけています。「おもしろいものづくりがしたい」の思いが、地域の町工場や住民を巻き込んだ一大プロジェクトに発展し、多くの人の協力によって電気自動車「Meguru」は完成しました。ここからものづくりの楽しさを多くの人に感じてほしいと思い、本社工場内に「ものづくり」を語る空間を設け、現在では交流会を2ヵ月に1回開いています。これからも、地域の企業や住民と協力して、守口や大阪が元気になるものづくり企業を目指します。

- 主な事業内容
試作品の設計・製造、小型電気自動車の製造・販売
- 主な取引先(納入先)
家電メーカー、農機具メーカー

住所 〒570-0005
大阪府守口市八雲中町1-13-6
TEL / 06-6909-1770
FAX / 06-6908-5735
創業 / 昭和36年4月
設立 / 昭和48年4月
資本金 / 1,000万円
従業員 / 16名

http://yodogawa-ss.com/

あなたの夢を“かたち”にする 商品開発のベストパートナー

事業内容と沿革

EV（電気自動車）「Meguru」で注目集める

「淀川製作所」は昭和36年創業の金属部品加工会社で、「みんながわくわくするものづくり」をモットーに農機具のエンジン周辺部品や照明器具の試作品、大学や研究機関で使われる試験片などを手がけている。特注品や小ロットの加工が多く、売上げの90%を試作品が占める。同社が全国的に注目を浴びたのが平成21年に始めたEV（電気自動車）を製作する「あっぱれ!EVプロジェクト」。リーマンショックで落ち込む守口を元気にしたいと小倉庸敬社長が中心となった地域活性化の取り組みだ。

デザイン事務所や地域の金属加工会社など数十社の協力を得て、平成22年に傘をイメージした和風テイストのEV「Meguru（メグル）」を完成させた。これが契機となり現在は遊園地やイベント向けにEV荷物運搬車や電車型EV（ロードトレイン）などの特殊搬送車両を製作している。最近では車体が地車の形をしたEVを作るなど守口を代表する会社として成長を続けている。

強み

社内や外部の協力で 完成品まで仕上げる 加工体制

強みは溶接から製缶、機械加工、組立まで一貫した製作ができること。創業当時は溶接と製缶のみの加工だったが、平成17年頃に近隣の町工場が廃業すると聞き、旋盤やNC(数値制御)加工機などを買い取ったことで、完成品まで自社でできる加工体制を整えた。「守口市でここまでの加工ができる所は少ない」と小倉社長は胸を張る。

また、社内には顧客の求める要望を図面に落とし込める工業デザイナー1名や、デザイナーの図面を形にできる経歴20年以上の旋盤工や溶接工、プレス機を用いて設計図と寸分たがわぬ曲線を作る加工歴36年の職人などが在籍している。さらに守口市の工業刃物メーカーやプラスチック成形メーカー、京都の漆塗り職人などつながる小倉社長の人脈も生きて、EV「Meguru」のような製品にも対応できている。小倉社長は「自社の加工体制のほかに、取引先や地域住民の協力がなければ、今の『淀川製作所』はなかった」と振り返る。

取り組み

本社工場の一部を 地域住民に開放

平成28年6月に、地域住民や町工場の職人らが気軽に情報交換ができるスペースを本社2階に開設した。EVプロジェクトの後「守口市内に住民が気軽に話せる場所がほしい」との小倉社長の思いを込めたスペースは約60㎡で、傘や琴などのインテリアで落ち着いた雰囲気を演出し、会合のほかに軽食や研修会などもできる。

同年8月には地域住民や町工場の関係者が中心となり「Meguru倶楽部」を発足させ、2ヵ月に1回のペースで毎回30名ほどがお互いに親交を深めている。中には大阪府松原市や京都府から駆けつける人もいて、回を重ねるごとに参加者が増えている。平成29年3月までに交流会が4回開かれ、参加者の中には仕事の幅が広がった人もいるという。小倉社長は「さまざまな立場の人との交流によって、多くの人に『ものづくり』で夢や希望を感じてもらえる場にできれば」と目を輝かせる。

今後の展開

中国の加工会社との協力で、 組立に注力

現在、EV関連の売上げは全体の10%ほどで「今後は電車型EVなど自社製品の売上げを伸ばしたい」と小倉社長は話す。電気自動車「Meguru」の宣伝効果もあり会社全体の仕事量は以前より増えている。この状況が続けば設備や人数の面で加工が追いつかず、付加価値の高い完成品の製作に人手を割くのが難しい。そこで平成29年度から中国・深圳の金属加工会社と協力して、切削など機械加工の外注を始める計画だ。現地の協力会社に材料の仕入れと加工を任せ、加工した部品を日本に運び組み立てる。これにより、加工コストを従来より抑え、同社では溶接や製缶、組み立てに注力できるという。短納期が求められる部品については従来通り日本で製作する。また、平成29年からは、同社の子会社がドイツのメーカーから輸入していたトンネル工事用シート溶着機の内製化も始まり、これらの取り組みで売上高を引き上げる計画だ。

金属加工

プラスチック加工

機械

部品部材

生活・環境